

# 2016(平成28)年度活動・事業報告

(2016年4月1日～2017年3月31日)

## 2016(平成28)年度はどのような1年だったか 前進面と課題(大づかみの振り返り)

1. 2015年4月、介護保険法が改正され新地域支援事業(介護予防・日常生活支援総合事業)が始まりました。この内容は、高齢者を住民の助け合いと地域社会の力で支えていこうということであり、ふれあいネットまつどが目指している方向(ミッション)と合致することから、松戸市の取り組みに協力してきました。松戸市訪問型元気応援サービスについてモデル事業者となり、活動をすすめることで地域貢献、社会貢献の役割を果たし、ふれあいネットまつどの社会的影響力を高めました。
2. 第1のミッション～たすけあい活動は、ふれあいサービスなどの有償ボランティア活動、介護保険サービスとも前年を大きく上回る実績をあげ、困ったときはお互いさまのたすけあいの会の本領を発揮しました。たすけあい活動の拡大を支えたのは新入会員の増加、会員の活動参加の広がりです。
3. 第2のミッション～支え合いと助け合いのある地域社会づくりは、ふれあいの居場所みんなち活動、高齢者の社会参加を促進する研修会、地域包括ケアシステム構築に向けたセミナーの開催などを旺盛に取り組みました。
4. 他方、経営・財政的安定を図るために、収益事業の拡大強化に取り組みましたが、十分な成果を上げるには至らず、緒についたこととまりました。引き続き最大の課題です。

## 8つの柱の活動・事業の振り返り(まとめ)

### 第1の柱 - おさそい運動・会員活動・研修活動

1. 会員おさそい運動を春と秋2回取り組み、ボランティア説明会を20回開催し、**新入会員が86人**、会員総数は435人、会員総数に占める2016年度1年間に入会した会員は、20%になります。

No.	種別	2015年度 入会数	2016年度 入会数	2016年度 期末在籍数
1	ふれあい会員(利用会員)	91	51	262
2	正会員(協力会員)	54	34	151
3	賛助会員	5	1	22
4	合計	150	86	435

※2016年度会費納入会員

2. **会員交流**として、毎月の誕生会など24回開催、のべ468人が参加、春のお出かけ、ふれあい敬老会、クリスマス会、新春の集いは、役員が委員長を担う実行委員会で開催しました。

項目	開催月	開催数	参加人数	内容
会員定例会		6	129	活動報告・交流
会員誕生会	第3月曜日	12	65	利用会員・協力会員へバースディカード
春のお出かけ	4月	1	48	船橋アンデルセン公園バス2台
ふれあいさんま祭り	11月	1	32	※活動参加会員数
ふれあい敬老会	9月	1	61	80歳以上ご長寿会員22人
みんなちクリスマス会	12月	1	52	※活動参加会員数
新春のつどい	1月	1	56	利用会員・協力会員交流
助成車両お披露目会	3月	1	25	
合計		24	468	

3. **会員研修活動**は、新入会員研修会、運転者研修会、実務研修会、フォローアップ研修会など、26回開催し、のべ182人の会員が参加しました。このほか、松戸市主催元気応援サービス基本研修会5回に87人が参加しました。活動種類増加に対応すべく、新入会員研修から始まる会員研修体系を新たに決めました。

項目	開催月	開催数	参加人数	内容
新入会員研修会		14	34	入会時全員受講
実務研修会	7月・3月	2	28	生活援助コース
フォローアップ研修会	6月・7月	2	24	移動・サロン・生活援助コース
運転者研修会	9月	1	28	運転協力会員
地域づくり研究会	9月・10月	2	25	第2層協議体
訪問介護員研修会		4	30	
普通救命講習会	2月	1	13	
合計		26	182	

4. 会員参加でボランティア活動の**政策を検討する会議体**として、ボランティア活動洗い出しプロジェクト、移動サービス検討委員会を立ち上げ、成果をマニュアルとしてまとめました。

## 第2の柱 - 困ったときはお互いさまのたすけあい活動

1. たすけあい活動の中核活動である**有償ボランティア活動(ふれあいサービス・松戸市元気応援サービス)**は、待機者増のため9月から新規利用受付を抑制したにもかかわらず、前年に比べて利用者数140%、活動時間数124%と大きく伸びました。活動時間数では、ふれあいサービスは前年並みでしたが、松戸市元気応援サービスが上乘せされ、月間約550時間の実績です。その一方、担い手人数は前年比113%と、利用者数・時間数の伸びに追いついておらず、コーディネート複雑さの増加とともに、2017年度に引き継ぐ課題です。
2. 日常生活支援総合事業の訪問型サービスのモデル事業である松戸市元気応援サービスは、移動サービスを組み込むなど全国的にも先駆的な取り組みと評価できますが、事業設計の複雑さなど普及化に向けた課題を抱えています。また、従来のふれあいサービスと違って利用者が会員ではな

いなど活動の仕組みについて、協力会員の理解を得ることなど、次年度に向けた課題が少なからずあります。

3. 制度サービスは、相談支援の強化を中心に取り組みました。その結果、居宅介護支援(ケアマネジメント)は利用人数で前年比127%に伸び、障害計画相談を新たに始めるなどの成果を生んでいます。
4. 訪問介護サービスは、担い手不足が解消できず新規受け入れをセーブした結果、前年並みの実績です。障がい福祉サービスは、障がいの特性に対応できる専門性のある担い手を確保する見通しが立たないため、移動支援サービスを除いて縮小の措置をとりました。
5. このような到達点は、ふれあいネットまつどが高齢者・障がい者(児)など手助けを必要とする人の在宅での暮らしを、24時間365日支えることを目指して、制度・制度外・地域の力をネットワークする方向性の正しさを証明しています。ふれあいネットまつどが単独でできることへ力を集中し、できないことはネットワークを強化するという選択と集中が必要なことをしめています。

(有償ボランティア活動)

種類		2015 実績	2016実績			前年 増減	前年 対比
			ふれあいS	困りごと	合計		
利用者数 (人)	移動サービス	791	811	297	1,108	317	140%
	生活援助サービス	196	252	24	276	80	141%
	<b>合計</b>	<b>987</b>	<b>1,063</b>	<b>321</b>	<b>1,384</b>	<b>397</b>	<b>140%</b>
協力者数 (人)	移動サービス	333	353		353	20	106%
	生活援助サービス	168	211		211	43	126%
	<b>合計</b>	<b>501</b>	<b>564</b>	<b>0</b>	<b>564</b>	<b>63</b>	<b>113%</b>
時間数 (時間)	移動サービス	4,717	4,118	1,359	5,477	760	116%
	生活援助サービス	547	944	89	1,033	486	189%
	<b>合計</b>	<b>5,264</b>	<b>5,062</b>	<b>1,448</b>	<b>6,510</b>	<b>1,251</b>	<b>124%</b>

(制度サービス)

種別	活動(提供)時間数			利用人数		
	2016実績	前年増減	前年対比	年間実績	前年増減	前年対比
居宅介護支援	-	-		1,192	254	127%
訪問介護	3,341	△143	96%	421	60	117%
障がい福祉	1,654	△334	83%	115	△25	82%
<b>合計</b>	<b>4,995</b>	<b>△477</b>	<b>91%</b>	<b>1,788</b>	<b>271</b>	<b>118%</b>

## 第3の柱 - ふれあいの居場所みんなんち活動

1. ふれあいの居場所みんなんちの目指す方向を以下のように3つに整理して、それぞれを魅力あるものにする 것을目指し、年間利用者3,000人を超える実績になりました。

《みんなんちは、3つの場(ミツバ)を大切にします》

目指す方向(活動)	効果	活動
地域の居心地の良い居場所	ホッとでき、くつろげる場所	ふれあい喫茶・食事会
人と人がつながる居場所	知り合い友達ができる場所	ふれあい喫茶・講座イベント
その人らしさを活かし輝ける居場所	やりがい・生きがいを感じる場所	講座・イベント・スタッフ

2. 趣味・文化・介護予防などの講座はどれも人気が高く、7種類の講座をのべ90回開催、1020人の参加がありました。松戸市元気応援クラブモデル事業についても、毎週水曜日をみんなんち元気応援クラブとして活動しました。
3. 映画鑑賞・カラオケ・歌声などのイベント、東漸寺お花見、紫陽花めぐり、もみじ狩りなどのお出かけ、さんま祭り・居酒屋などの会食会など多彩な活動を行いました。
4. 運営のボランティアは前年の2倍以上15人に増え、1日2人～4人のスタッフが交代で運営するスタイルが確立してきました。

## 第4の柱 - 支え合い助け合いを広げる活動

1. ①支え合い助け合い(互助)の大切さを市民に広げる②地域包括ケアシステム構築の理解を広げる③行政・市民・町内会などの地縁組織・NPO・専門職の協働を促進することを目的に、イベント、セミナーなどに取り組みました。

項目	開催月	参加人数	内容
小金宿ふらり市出店	10月	18	小金商店会イベント
小金ふれあい広場出展	10月	22	小金地区社協イベント
ふれあいさんま祭り	11月	194	被災地支援と交流
地域包括ケア研究会第1回セミナー	11月	50	ケアマネージャーなどの専門職と 市民団体・住民を対象
地域包括ケア研究会第2回セミナー	12月	60	
地域包括ケア研究会第3回セミナー	1月	180	
みらいフェスタ出展	3月	30	東日本大震災支援活動
合計		554	

2. 広報まつど9月15日号・3月1日号に広告掲載、全国紙、地域紙などの紙媒体掲載が15回NHKTV・ラジオ、ちばテレビ、ケーブルTVなどでも取り上げられ、支え合い助け合い活動を広く知らせることができました。

## 第5の柱 - たすけあい活動の担い手養成事業

福祉・介護の人材養成事業として、介護職員初任者研修を初めて開催し、福祉有償運送運転者講習会、元気シニアの活躍サポート研修会などを7回開催、118人を養成しました。

項目	開催月	参加人数
介護職員初任者研修	4月～6月	12
福祉有償運送運転者講習会	6月	20
福祉有償運送運転者講習会(東金市社協)	8月	9
福祉有償運送運転者講習会(山武市社協)	8月	19
元気シニア活躍サポート研修会(移動サービスコース)	10月	19
元気シニア活躍サポート研修会(サロン・居場所コース)	11月	20
元気シニア活躍サポート研修会(生活支援コース)	11月	19
合計		118

## 第6の柱 - 東日本大震災被災者支援活動

- 2011年3月11日の発災直後に会員有志で、「チームたすけあい」を結成して始めた被災者支援活動も6年を経過しました。社会の風化現象に対して、ふれあいネットまつどのミッションである「困ったときはお互いさま」の精神の象徴的発露としての被災者支援活動を2つの柱で取り組みました。
- 宮城県東松島市被災者支援・交流活動として、①第24回学びと交流バスツアー(7月)②牛網地区においてコミュニティサロンみんなんち開設支援活動(1月オープン)を行いました
- 千葉県東葛地域の広域避難者に対する支援活動を、東日本大震災復興支援松戸・東北交流プロジェクト事務局団体として、避難者交流サロン黄色いハンカチを拠点に取り組みました。福島県の自主避難者への2017年3月末住宅支援打ち切り問題を重視し、千葉県・松戸市との交渉、勉強会や交流会などに取り組みました。

主な活動	開催月	回数	参加人数
松戸・東北交流サロン(月～木/10時～16時)	4月～3月	209	3135
講座・勉強会(サロン)	4月～3月	77	924
避難者交流会(サロン・柏・清澄)	4月～3月	15	120
避難者相談会	4月～3月	11	30
活動報告会	6月	1	50
チャリティコンサート	9月	1	133
防災・減災ワークショップ	1月	1	45
3, 11大うたごえ喫茶&七回忌法要	3月	1	750
みらいフェスタ黄色いハンカチキャンペーン	3月	1	30
合計		317	5217

---

## 第7の柱 - NPO・行政などとの協働事業

1. 介護予防・日常生活支援総合事業について、松戸市社会福祉協議会・松戸市シルバー人材センターとともに介護制度改革課と協議をすすめ、訪問型元気応援サービスとして、2016年3月よりモデル事業をスタートさせました。また体制整備事業第1層協議体委員を担い、第2層の設置に向けて協力しました。
2. NPO・市民団体のネットワーク強化を目的に、市民福祉団体全国協議会・千葉県たすけあい協議会・まつどNPO協議会・ちばNPO協議会の役員を担いました。

## 第8の柱 - 組織運営・組織基盤づくり

1. 会員が総会、理事会、定例会の基本運営、日常のたすけあい活動、みんなんち活動などに参加するだけでなく、会運営に関心を持ち、参画を促進することを目的に、会員交流・支え合いを広げる活動について、役員・事務局以外の会員も参加する実行委員会を作って取り組みました。
  2. 事務局スタッフの力量アップと、使命感を高めることを目的にスタッフ研修を実施。マネジメント力の向上・業務分担責任を明確にするため、部門会議を開催し、たすけあい活動の強化を図るためにコーディネーターを増員するなど、事務局体制の再編、強化に取り組みました。
  3. 自主事業収入と補助金収入の割合が、48%:52%と自主事業収入の割合が50%を切りました。会員数、たすけあい活動、地域づくり活動ともに成果を上げ前進しているにもかかわらず、自主事業収入が前年割れの92%という実績は、これらの成果を収益に結実させる事業活動の弱さを表しています。収益構造の転換、助成金・補助金依存構造の転換など、引き続き最重要課題です。
-